

小学校 外国語科 学習指導案

〇〇〇市立〇〇小学校

指導者 〇〇〇〇〇

1. 日時 令和〇年〇月〇日 (〇)
2. 場所 第6学年〇組教室
3. 学年 第6学年〇組 (〇〇名)
4. 単元名 Unit2 Welcome to Japan! (使用図書 省略)
5. 単元(題材)の目標 「新しく来られる ALT に、〇〇市や日本のことを好きになってもらうために、季節のイベントや観光地など〇〇市や日本のよいところを伝えたり、質問に答えたりすることができる。」

6. 教材観

今年度2学期より新しい ALT が来日する。「Unit1. 自己紹介」「Unit2. 日本のイベント紹介」「Unit3. 頻度を表す副詞を使用し、日常の事を伝え合う」の単元を通して、相手意識をもって自分のことや自分の好きなこと、日常のことなどを伝えるという課題が設定されている。全ての Unit において新しい ALT との出会いを意識することで児童は主体的に活動に取り組めるものとする。また、2学期の最初の授業で新しく来られた ALT に、日本の良いところを伝えるという目標を明確にし、児童と共有することで、「Unit1. 自己紹介」「Unit2. 日本のイベント紹介」「Unit3. 頻度を表す副詞を使用し、日常の事を伝え合う」での課題につながりをもたせることができるものとする。

「Unit2. Welcome to Japan!」では日本で体験できるイベントを紹介したり、そのイベントでできることを伝えたりするための言語材料が設定されている。児童には「Welcome to Japan!」という気持ちを持って新しく来日する ALT を迎え、対話的な発表を通して ALT と会話をしながら日本の文化を伝えることができる姿を期待している。

7. 児童観

(※省略)

8. 指導観

中学校に上がった際に英語の難しさ、小学校英語の時とのギャップを感じて英語に苦手意識をもつ児童がいることは課題であると考えている。授業では「いつの間にか少し話せるようになったかも!」と感じて中学校に進学できるように指導していきたいと感じている。そのために、授業では、

- ①英語はコミュニケーションツールであるという意識を大切にする。
 - ②フレーズの練習をする際はシチュエーションを設定するようにする。
 - ③テンポ良くかつ、わかる input を意識する。
 - ④間違える事に抵抗感のない授業の雰囲気を大切にする。
 - ⑤児童から出た良い質問は全体で共有するようにする。
- という5つのことを意識したい。

①英語はコミュニケーションツールであるという意識を大切にする。

「英語＝入試で必要なもの」と考えている児童も、中にはいるように感じている。そのような考えをもつ児童にも、大人になって社会に出たときに、学んだ英語をどう生かして会話をするかを考えられる力を身につけてほしいと考えている。そのために、授業では「こんな時にこういうフレーズ言いたくない?」と投げかけ、英語は楽しくやり取りをするためのコミュニケーションツールであるということを大切にしたい。例えば Do you like ____ ? の質問に対して Yes でも No でもない時は Not really. という表現を紹介するなど、子どもたちが使いたいのと思う事をシェアすることで、児童の英語に対する興味・関心を広げていきたい。

②フレーズの練習をする際は必ずシチュエーションを設定するようにする。

教科書の日本語訳は場合によっては児童にとってイメージがわきにくいということがある。そのため授業でフレーズを入れて会話の練習をする際や Speaking test を行う際はシチュエーションを設け、使う際のイメージが湧くよう工夫している。

③テンポ良くかつ、わかる input を意識する。

外国語の授業は普段使用しない言語のため、苦手意識をもっている児童にとっては難しく感じやすい。テンポ良く、かつシンプルで児童が分かる input をたくさん実施することを意識し、いつの間にか分かるようになっていたと感じてもらえる授業を心掛けている。

④間違える事に抵抗感のない授業の雰囲気大切に。

発表している児童が間違えたり失敗したりした場合に、絶対に笑わないということを授業中のルールとして子どもたちに示している。児童が「何か変なことを言ったかな」と不安にならないよう、安心して自分の考えを発表できる場を大事にしたい。また授業者自身も勉強中であり、一緒に学んで行こうと伝えている。

⑤児童からでた良い質問は全体で共有するようにする。

会話の練習中や机間指導の際にでた児童からの質問は、できる限り全体で共有するようにしている。質問したことを授業内で共有することで「この授業では気軽に質問していいんだ！」という児童の安心感につながり、児童からの質問で出たフレーズの方が「そのフレーズ、私も使ってみたいかも！」と、興味をもって主体的に取り組むことができると考える。

9. 単元（題材）の評価規準【評価する領域：聞くこと、話すこと（やりとり）】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	〈知識〉 We haveや You can see / eat / visit / enjoyなどの言い方について理解している。 〈技能〉 What season do you like?など、好きな季節や食べ物などについて、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。	ALT が過ごしてきた環境や文化を意識し、理解するために、相手の好きな季節など、具体的な情報を聞き取っている。	ALT が過ごしてきた環境や文化を意識し、理解するために、相手の好きな季節など、具体的な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと（やりとり）	〈知識〉 We haveや You can see / eat / visit / enjoyなどの言い方について理解している。 〈技能〉 季節のイベントや観光地などについて、We haveや You can see / eat / visit / enjoy What season do you like?等を用いて、考えや気持ちを伝え合う技能を身に付けている。	ALT に、交野市や日本のことを好きになってもらうために、季節のイベントや観光地など、交野市や日本のよいところやそこでできることなどについて、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	ALT に、交野市や日本のことを好きになってもらうために、季節のイベントや観光地など、交野市や日本のよいところやそこでできることなどについて、質問をしたり、質問に答えたりしながら、自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

10. 単元指導と評価の計画

時	主な学習内容	主な評価規準【観点】（評価方法）
第1時	◇単元のゴールを確認しよう。 ・季節やイベントの言い方を知ろう。	「指導に生かす評価」は、 随時行うこととする。 ここに改めて記載はしない。
第2時	◇You can～の表現を使ってできることを伝え合おう。	
第3時 (本時)	◇好きな季節をたずね、その季節に交野市で、できることを伝え合おう。	
第4・5時	◇ALT に紹介するイベントや、そこでできることを考えよう。	
第6時	◇ALT に紹介する練習をし、どんな会話をするのかを練ろう。	
第7時	◇他のグループと練習して、プレゼンテーションをレベルアップしよう。	「聞くこと」「話すこと（やりとり）」の記録に残す評価 【知識・技能】（動画・発表メモ） 【思考・判断・表現】（動画・発表メモ） 【主体的に学習に取り組む態度】（動画・発表メモ）
第8時	◇ALT に、季節のイベントや観光地など、交野市や日本のよいところを伝えたり、質問に答えたりしよう。	

11. 本時について(第3時)

(1) 本時の目標

- ・イベント紹介のフレーズを理解し、聞き取ることができる。
- ・好きな季節についての会話をし、好きな季節やその理由と交野市でできることを伝え合ったり、リアクションを取ったりすることができる。

(2) 本時の評価規準（指導に生かす評価）

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	相手の過ごしてきた環境や文化を意識し、理解するために、相手の好きな季節などを聞いて、その具体的な情報を聞き取っている。	相手の過ごしてきた環境や文化を意識し、理解するために、相手の好きな季節などを聞いて、その具体的な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと (やりとり)	相手の過ごしてきた環境や文化を意識し、理解するために、季節のイベントや観光地など、〇〇市や日本のよいところやそこでできることなどについて、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	相手の過ごしてきた環境や文化を意識し、理解するために、季節のイベントや観光地など、〇〇市や日本のよいところやそこでできることなどについて、自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

(3) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価〈方法〉
Phonics (1min)		
【単元のめあて、本時のめあてを確認する】 ◆Today's Goal「好きな季節をたずね、その季節に交野市でできることを伝え合おう」		
【前時の復習】 Let's listen! (10min) ・指導者と ALT との会話を聞き取り、グループで意見をシェアする。 ※下記に Script 記載 (A)	・リアクションやあいづちを含め、やり取りを子どもたちがイメージできるようにする。 ・グループになり、どのような会話や単語が聞こえたかを交流させる。(今までに学んだ会話や単語、初めて聞いた会話や単語など、聞く時の視点をもたせるようにする)	
Review the words and phrases (10min) ペアで、場所や建物の画像を見てヒントを出し伝え合う。(You can see...etc) また、ヒントを出し合いながら、表現を確認する。	・初めに指導者が例を見せ、input を行う。 ・児童には自由な発想で考えるよう声かけをする。 ・交野市にある子どもたちにとって身近な建物や場所などを示すようにする。(織物神社、星のブランコ、いきいきランド等…) ・今までに学んだフレーズを短冊に示し、黒板に示すようにする。	
Let's Talk (20min) Today's topic is "Season" ! 1) Talk 1 (5min) 2) Talk 2 (15min) 3) Reflection (5min)	1) Talk 1 ではペアでの会話を行う。苦手な児童をフォローしながら、Advanced で会話できることをめざす。 2) Talk 2 ではグループになり、ALT 役のペアと質問をする児童役のペアに分かれてやりとりを行う。その際に、グループ内で記録係を決め、やり取りの様子をタブレットで動画撮影し記録する。時間で役を交代する。 3) 撮影した動画を確認し、次回に向けてよりよくするとよいところについて話し合う。	[「聞くこと」「話すこと[やりとり]」の指導に生かす評価] 【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】 (行動観察・動画) Basic: 基本の文章のみ Advanced: 基本の文章に + α 情報、相手への質問を付け加えている ※会話の例文は下記に記載(B) ペアで動画を撮り合い、授業後に提出させ、主体的に Advanced に挑戦しているかを評価する。

Reflection (4min)	・ 繰り返りの視点を具体的に提示して繰り返らせる。 ①好きな季節を英語でたずねることができましたか？ ②その季節にできることを英語で伝えることができましたか？ ③相手のたずねたことに英語で答えることができましたか？ ④プレゼンテーションをよりよくするためにどのようにするとよいかを考えることができましたか？	
-------------------	---	--

(A)Listening Script

Shiori : Hi!
Alina : Hi! What's up, Shiori?
Shiori : I'm good!
Oh! By the way ○○○, what season do you like?
Alina : I really like summer!
Shiori : Oh! why?
Alina : I love the summer festival in (※▲▲▲) . ※市名が入る
Shiori : Right! We have the Star Festival in summer.
Alina : Yes!
You can go to the shrine.
You can enjoy hanging colorful paper *tanzaku* on the bamboo.
You can eat candy apples.
Sometimes you can see Orihime-chan.
Shiori : Sounds good! Do you want to go together this year?
Alina : Really? Of course! Let's go!

(B)Small Talk 会話の例文

1) Basic

Teacher: What season do you like?
Student: I like summer. We have summer vacation.
What season do you like?
Teacher: I like winter.
I can get *otoshidama*.

2) Advanced

Teacher: What season do you like?
Student: I like summer. We have summer vacation.
You can see fireworks. Do you like fireworks?
Teacher: Yes, I do!
Student: Me too! What season do you like?
Teacher: I like winter.
My birthday is February, and I can get *otoshidama*.
Do you want *otoshidama*?